

研究・調査報告書

報告書番号	担当
4 4	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Gender differences in gastric cancer incidence in elderly former drinkers. 以前に飲酒していた高齢者の胃癌発症率の性差	
執筆者	
Song HJ, Kim HJ, Choi NK, Hahn S, Cho YJ, Park BJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol. 2008 Aug;42(5):363-8. Epub 2008 Jun 24.	
キーワード	
過去の飲酒、高齢者、胃癌発症率、性差	
要 旨	
<p>胃癌と飲酒については多くの研究がなされているが、結果は一致しないことが多い。我々は飲酒と胃癌の性差について調べるために住民を基本とした前向き研究を行った。1993-1998 年に 64 歳より高齢の高齢者を対象とした基礎調査を行った。基礎調査情報は自記式質問用紙を使用した。胃癌は National Cancer Registry (国立癌登録) より得た。Cox 比例ハザードモデルを用い相対危険度を 95%信頼区間と共に計算した。13,396 人を 116,997.1 人年追跡調査したところ、151 人が新たに胃癌と診断された (80 人は男性で 71 人は女性)。胃癌になる危険性は女性で過去の飲酒者が現在の飲酒者もしくは非飲酒者に比べて高かった (調整相対危険度: 2.85(95% 信頼区間: 1.11-7.32))。女性の過去の飲酒者は現在の飲酒者に比べ飲酒量が多く (36.5g/週対 16.4g/週、$P < 0.0001$)、現在の飲酒者に比べ飲酒期間が長かった (24.5 年対 18.46 年、$P < 0.0001$)。女性の対象者で 1 週間当たり 110 g より多く飲酒している者は胃癌を起こす危険性が高くなっていたが、有意ではなかった (調整相対危険度: 2.23 (95% 信頼区間: 0.79-6.29))。男性ではそのような関連は見られなかった。飲酒と胃癌の関係は性別によって異なった。飲酒は女性では胃癌発症危険度の増加に働く可能性があるが、飲酒をやめても数年は胃癌発症の危険度が増加したままになっている可能性がある。</p>	